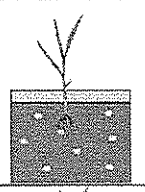
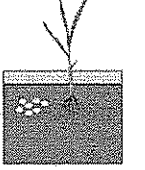


～高品質米(1等級比率90%以上)を 目標に基本技術を励行しましょう～

【本田初中期管理のポイント】

1. 基 肥

- 高品質・良食味米生産のため、基肥は土壌条件に見合った施肥量で適正な生育量を確保することを基本とし、「**良質茎の早期確保**」「**過剰生育の抑制**」「**後期栄養の確保**」を達成するため、それぞれの田んぼの地力に合わせて施肥量を設計する。また、**施肥方法(全層・側条)**、**肥料の種類(化学肥料・有機質肥料)**、**施肥体系(分施・基肥一発)**を考慮し施肥設計をしましょう。

		特 徴
全層施肥		<ul style="list-style-type: none"> ○肥料が作土全体に吸着され、流亡少ない。 ○初期生育がやや劣るが、後期の生育が盛んになる。 ○低地力地帯では、緩効性の被覆肥料を利用すると、登熟後半までの稲体の活力維持に有効。
側条施肥		<ul style="list-style-type: none"> ○根圏の肥料濃度が高い →肥料の利用効率高く、全層施肥より1～2割減肥可能 →活着直後から養分吸収始まり、初期生育良好 ○作土下層に肥料が入らないので、低地力地帯では堆肥や全層施肥との組み合わせ(例：半量ずつ)をする。

2. 田 植 え

- 出穂期～登熟期の高温障害のリスク回避(きっちり登熟する稲姿に)するため、**適温で登熟する出穂期を迎えるためにも、連休後半の5月5日以降(目標は5月10日以降)に移植しましょう。**※極端な早植え(4月下旬)は厳禁。
- 田植は好天の日に行ないましょう。(特にプール育苗は植傷みしやすいので注意する。)
- 栽植密度は50～60株植を基本とし、1株当たりの植込み本数は3～4本植として多苗(過繁茂、細莖化)を避けましょう。(10a使用箱数の目安・・・18箱/60株、15箱/50株)
また、高地力田や大豆跡地といった生育過剰になりやすいほ場や常強風地帯など茎数が確保しにくい地域は、ほ場条件を考慮し栽植密度を調整する。
- 補植は、基本的には行わず連続欠株とまくら地程度にすませましょう。また、終わりしだい**補植苗は直ちに撤去**しましょう。

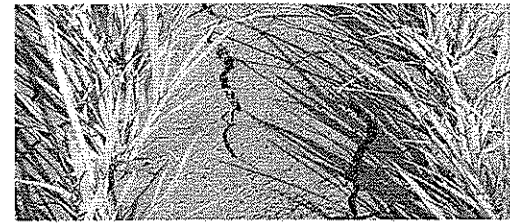
3. 初期の水管理

- 田植後活着するまでは3～4cmの保温的水管理で低温や強風による植傷みを回避しましょう。(初期生育の遅れやすい有機基肥一発肥料を使用する場合は重要。)
- 活着後は2～3cmの浅水として水温の上昇を図り分けつの発生を促し、良質茎の早期確保に努めましょう。
- 春雑草生すき込み等によりワキの発生が多いほ場については、夜干し・水の更新等の対策を取りましょう。(田面の土壌が十分乾燥しない条件で耕起した圃場は、ワキが発生しやすくなるので特に注意が必要。)

4. 溝切り・中干し

- 目標茎数の7～8割を確保で直ちに落水し、梅雨入りする前(移植後30日を目安)に中干しを開始しましょう。中干しの終了時期が遅れると、根域が縮小し、高温年では品質が低下する場合がありますので、出穂の1ヶ月前(生殖生長への転換期)までに中干しを終了しましょう。
- 梅雨時期に中干しを効果的に行うには、溝切りは必須の技術です。
溝切り間隔：8～10条に1本、末端を排水路に接続し、溝の深さは10cm以上を確保。
中干し時期：地力の高いほ場では、目標の穂数の70%(㎡当たり270本)、砂質土壌では80%(㎡当たり300本)を確保したとき(6月10日頃)

【中干しの目安】



小ヒビが入る程度とする

㎡当たり茎数早見表

田植機 株セット	1株の平均茎数					
	15本	16本	17本	18本	19本	20本
50株	227	242	258	273	288	303
60株	273	291	309	327	345	364

白抜き数字が中干し開始目標茎数

中干し・溝切りの効果

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ①無効茎の発生抑制による適正生育量の確保 | ④収穫時の機械作業が可能な地耐力の確保 |
| ②下位節間の伸長抑制による倒伏軽減 | ⑤フェーン等の緊急時の迅速な灌水 |
| ③土壌への酸素供給による根の健全化 | ⑥秋の長雨による停滞水の容易な排水 |

◎カドミウム対策(湛水管理)を徹底するためにも適期中干しをしっかりと行いましょう。

5. 病虫害防除

◆斑点米カメムシ類の発生防止対策を徹底しよう!

3週間おきに2回の一斉草刈りで、出穂後1回の地域一斉防除を徹底し、斑点米0(ゼロ)を目指しましょう!

※田植後、農道畦畔のこまめな草刈りを実施しましょう。

◎育苗箱施用剤の種類と対象病虫害

区 分	薬 剤 名 (※○数字は農薬成分数)	対 象 病 害 虫					
		葉 いもち	穂枯れ (もみ枯病)	イネノロ オムシ	イネミス ゾウムシ	ニカメイ チュウ	カメムシ 類
殺虫剤	①フェルテラ箱粒剤			○	○	○	
	①ワンリード箱粒剤			○	○		
殺菌・ 殺虫剤	②Dr.オリエ'プリンス粒剤6	○	○	○	○	○	
	②ツインターボ箱粒剤	○	○	○	○		
	①スターダム箱粒剤			○	○	○	○

- 同一箱施用剤を連用している場合には使用薬剤の変更を行いましょう。
- 薬剤の施用量が不足していると十分な効果が得られませんので、各薬剤の施用量、使用時期を厳守して下さい。
- 育苗後のハウス内で野菜等の栽培を予定している場合は、移植前の箱処理剤使用についてはハウス内での使用(散布)は避けましょう。(※水稻箱処理剤の使用成分は、野菜等の作物に使用登録が無いことから、ハウス内で散布した場合に残留農薬として検出される場合があります。)また、田植終了後に突いた育苗箱を再度、野菜苗等の育苗で使用を考えている場合についても同様に箱処理剤を使ったものについては使用を避けて下さい。



作業が終了したら...

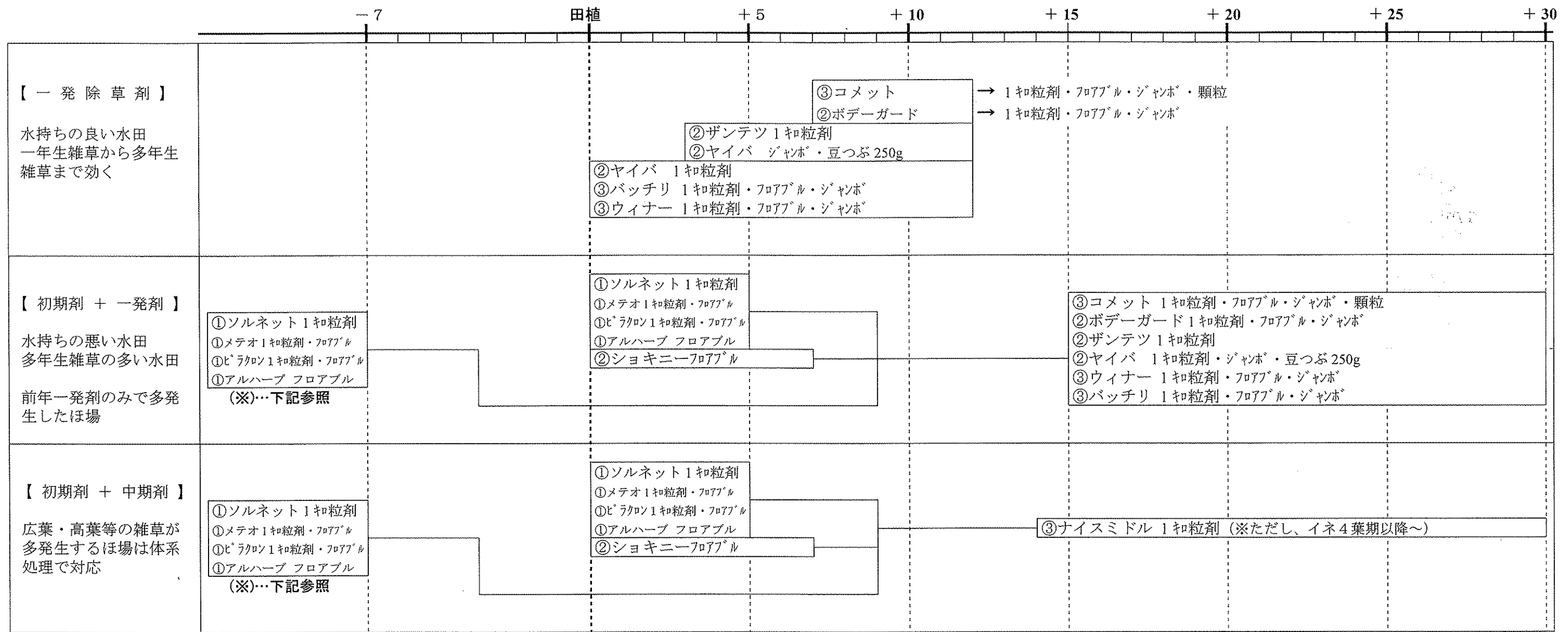
タイヤ及びクローラの土をしっかりと落としてから公道に出ましょう!

春耕期になると道路に泥や土塊が散乱しているとの苦情が毎年数件寄せられています。

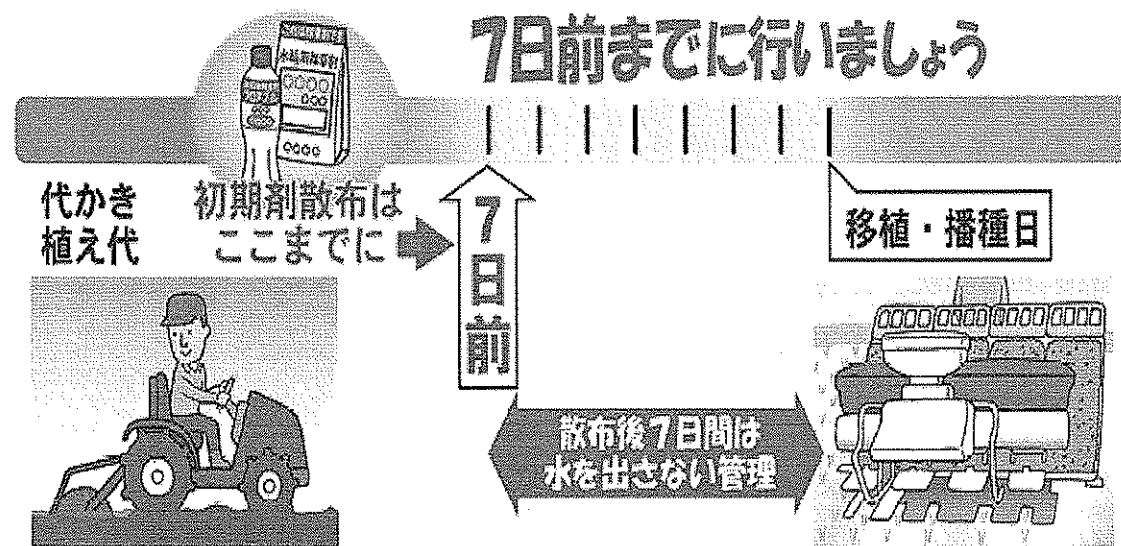


除草剤の散布体系（例）

（※○数字…農薬成分数）

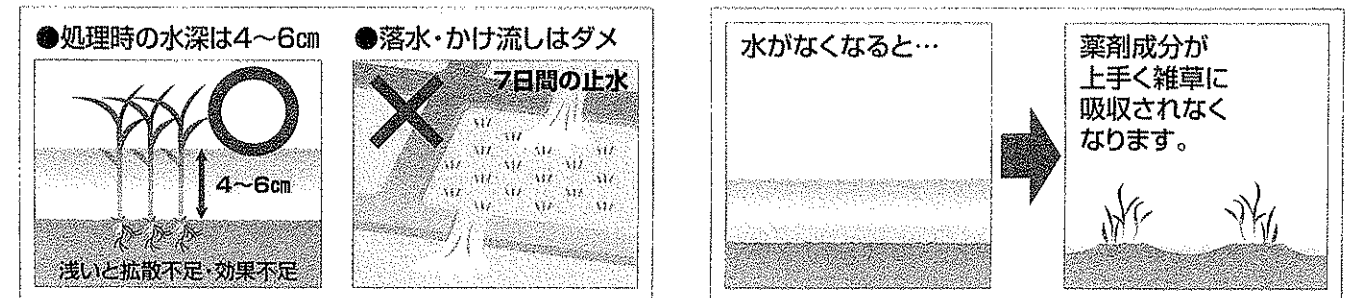


（※）…移植前に除草剤を使用する場合は、7日前までに行いましょう。



● たっぷりの水で散布し、処理後は落水・掛け流しをしない

薬剤処理前にはネズミ穴などないように畦畔を補修し、水尻もしっかり止め、たっぷりの水深（4～6cm）を保って散布します。湛水を維持しながら田面水を外に出さないような水管理を行って下さい。また散布後は7日間は止水し、落水・かけ流しを避けて下さい。処理層をきっちり形成し、雑草に薬剤成分を上手く吸収させる為です。



< 農薬使用上の注意事項 >

農薬容器や包装ラベルに記載された「適用作物」「使用量・濃度」「使用時期」「使用回数」と「使用方法」を必ず使用前に各自で確認し、適正に使用しましょう。